

## 第4回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画策定委員会 議事録

日 時：平成25年6月26日（水） 14時～15時30分  
場 所：秋田市議場棟 第四委員会室  
委員の定数：13人  
出席委員：10人

### 1 開会 2 議事

#### (1) 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画（案）について

秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画（案）（資料1、2）について、事務局から説明を行った。

- ・資料1 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画（案）
- ・資料2 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画別冊(案)

※ 冒頭で、本案は、これまでの策定委員会および庁内協議を踏まえ、事務局が加除訂正を行ったものであること、本案について、7月7日までの期間、パブリックコメントを実施している旨を説明。

委員 長 ( 議 長 )	<p>行動計画（案）第一章の行動計画策定の趣旨の末尾の記載を「誰もがいきいきと暮らせる社会を実現することが市民一人ひとりの幸福と社会の活力を育む基盤となるものと考え、秋田市では高齢者の力で社会を活性化する新たなモデルとして本行動計画を着実に推進にしていきます。」という文言に修正する旨の事務局の説明について了解した。</p> <p>このことに関連して、委員として発言させていただきたい。</p> <p>エイジフレンドリーシティを目指す取組の一つに、昨年度から秋田市が実施している介護支援ボランティア制度がある。昨日、この制度でボランティア活動をされた方々の研修会があり、そこで、ある80歳代の女性の方が発表された活動体験に非常に感激したので、皆さんに紹介したい。本日、原稿をお借りしてきたので、読み上げさせていただく。</p> <p>(以下、原稿読み上げ)</p> <p>私の夫は2年前に肺炎とインフルエンザのために入院しました。退院を言われた時は寝たきりになり、私も体調を悪くして家へ連れて帰ることはできず、その時から老人保健施設のお世話になっております。</p> <p>夫が施設のお世話になっているからには、いつも福祉の方で何か私にできるお手伝いはないものかと考えておりました。</p> <p>そんな折、新聞の介護支援ボランティア制度の記事が目につきました。そして、講習会をやることも知りました。でも私は年齢も高いし、体力もないので、できることがあるかしらと心配でした。それでもまず、講習を受けるだけでもと思い、2回目の講習</p>
-----------------	--

会に参加しました。その中でボランティア制度の対象となる活動の中に「話し相手」の項目があり、話し相手なら何とかできるかも、と思って登録させていただきました。

でも、もう一つ困った事がありました。それは受け入れてくださる場所です。私は車の運転はできませんのでバスの通る道筋、バス停の近く、バス時間等いろいろ調べました。おかげさまで、まずまずの場所が見つかり、家族にも協力してくれるように話しました。今年の冬は雪も多く道路も悪かったのでバス停まで送り迎えしてもらったこともありました。

ボランティアのことは、最初どのように接すればよいものか、私は知識も経験もなく大変戸惑いましたが、今は自然に動けるようになりました。利用者の背をさすり、手を握り、言葉をかけて一緒に歌ったり、手足を動かすことを手伝えることができるようになりました。時には、お花見のお話や田植えのお話をして、話題を引き出してあげると、子どもを連れて花見をしたことや仕事仲間と花見したことなどを喜んでたくさんお話してくれます。

利用者の方々と接していると、私自身いろいろなことを考えさせられて、涙の出るようなこともありました。二つ三つお話しさせていただきます。男性の方ですが、私と奥さんとを間違えておりまして「おめえバスで帰れ。俺まだくびになっていないが、昼飯食べていぐ。」と言っておりまして。次は、女性の方ですが、目をつむったまま手を動かしておりますので、手を握りながら「母さん、今度唱歌歌うよ。」と声をかけ、鯉のぼりとか茶摘みを歌って、その中で「靴が鳴る」を歌うと足を動かして反応してくれました。目をつむり声も出さないし、何も分からないと思っていても、少しでも心に触れるものがあるものです。それから、私が一番うれしかったお話ですが、一緒に唱歌を歌った時の利用者のご家族3人が面会に来て帰る時に事務室に寄って、「あのボランティアの人有り難いねえ。」とお礼を言って帰られたそうです。

次に私が心がけていることは、自分が背中も丸くなり利用者の方と間違われぬようにシャキッとした気持ちで出かけていきます。そして20年来買ったことのなかった口紅を一本買いました。もちろん手帳がポイントのスタンプで埋まるのも一つの励みになっております。ちなみに夫のところへは週二回程行って食事の介助などを行っています。へたな発表ですが、終わります。ありがとうございました。

(以上で読み上げ終了)

この発表を聞いたとき、エイジフレンドリーが求めているものは、正にこういうことで、一人ひとりが年だからといって諦めないことで、こういう可能性が引き出されるということを皆さんにお話ししたかった。

この方のような体験をされる市民の方々が増える事がいきいきした社会につながり、いろんな面で秋田市が活性化し、光ってくるのではないかと考える。

		行動計画案に関する質疑を続ける。委員から質問・意見等はないか。
委員 (議長)	長	私からよろしいか。 20ページの「住宅改修に関する適正化」について、概要は住宅改修費を支給するというもので、目標値は申請の不明点の確認回数となっている。電話とか窓口とか現場での確認回数150回ということで、現状と平成28年度の数値が記載されているようであるが、申請の不明点の確認回数と、概要に記載されている住宅改修費を支給することとの関連が分かりづらい。
事務局		この住宅改修については、改修費の支給はもちろんであるが、利用者の心身の状況にあった適切な住宅改修がなされるよう、しっかり確認しながら進めていくという部分が重要なポイントになっている。そのため、チェック回数を指標としたものである。
委員		実際のねらいと、この表現から受ける印象は多分違っていて、私は、この不明点の確認回数というと、申請をする側が、申請書の書き方や自分のやろうとしていることが適用になるのかどうかなどについて、例えば電話で聞く回数という印象を受ける。そうであれば、必ずしも聞く回数が多いよりは、そういうことに迷わずすんなりと申請できる方が当然望ましいということになる。そう考えると、表現が今の説明内容に結びついていないのではないか。実際どういう言葉を使えばいいかとなると難しいが、読んだときに違和感を感じるので、可能であれば、表現のところを検討いただきたい。
事務局		担当課の介護保険課と調整する。
委員		重点プログラムに「Ⅲバリアフリー化の促進」と「Ⅳ高齢者の交通手段の確保」があるが、この掛け合わせが起こってもいいのではないか。 ワンコインのバスが走るということで、経済的に乗りやすく、中心市街地の中も動きやすくなっている。しかし、低床バスが運行していないところでは、障がいがあってバスに乗れない方達がまだまだいる。ただ安いだけでなく、こうしたところとの掛け合わせがどこかの施策に入っていないかならならないのではないか。 バスに乗らずに、タクシーに乗った方がいいといった、極端な方向に施策がいつているような感じがする。 一気に100パーセント変わるわけではないが、目標として、例えばバスへの乗りやすさ。いろいろな地域で低床化が促進されてきているが、その目標くらいはここに載せるべきではないか。 言葉として、バリアフリー化とか高齢者の交通手段の確保とか書かれているが、肝心の部分が抜けてる印象がある。そういった目標を入れていただきたい。

		<p>例えば身内でも、「バス安くなったよ」とか「中心市街地に行きやすくなった」という話は聞くが、あのバスには乗れないなどという話を聞くのも事実。そういった部分にも焦点を当てていただきたい。</p>
事務局		<p>取り組み内容をいかに明確に表記していくかは、この後の次期行動計画の策定にも繋がる課題と認識している。</p> <p>例えば、高齢者のコインバス事業を見ていただくと、バス利用者の増加を受けて、今後、その事業主に対してバリアフリー化を推進するよう要請していくということが、実際の事業として何年もやっていくという形では見えていないのだが、そういったものがそれぞれの事業のなかで関係している。ただそれが文章という形でここには明記されていないので、今後、そういった部分をどのように表記していくのかについて、次期計画策定に向けて検討していきたい。</p>
委員		<p>非常に市民に訴えやすい事柄だと思う。例えば、今循環バスが走っているが、こういう形を今後は徹底していくといった、このまちはこういうまちを目指しているんだという、いろんなメッセージを示していくべきと思う。</p>
事務局		<p>引き続き、検討していきたい。</p>
委員長 (議長)		<p>基本的な考え方の中の「マイナスイメージを払拭して新たにプラスイメージを創出することが大切です。」という文言について、基本施策1では、「マイナスイメージを持つことがないように」という表現だけで、プラスイメージについての記述がされていない。</p> <p>高齢者ということに対するマイナスイメージだけでなく、例えば、高齢社会に対する正しい理解を深めて、「年齢に関わらずいろんな可能性を持っているよ。」というようなプラスイメージを広めていくことも基本政策の中に足されていくと、「年いってもいいこともある。」ということに繋がっていくのではないかと。</p>
事務局		<p>基本政策1の文言については、再度、事務局で調整させていただきたい。</p>
委員		<p>現在、市民の会が立ち上がっており、そのホームページを来月辺りからアップするために作業をしている。その中で、自分達の取り組みだけを紹介するというのは片手落ちになるので、全体的な情報のやり取りにチャレンジしていきたいと思っている。市役所の取り組みは多く、どこをどこまでというのは難しいとは思いますが、情報発信の道具なので、そこは関係を密にしてやれればと思っている。</p>
委員		<p>先ほどの委員長のお話は、自分の場所を主体的に探し、自分で</p>

切り開いていくことを実践された方の話であった。

今、マイナスイメージ、プラスイメージについて話題になったが、ちょっと受け身的なところが見え隠れするので、より高齢者が主体的に何かを作り上げていけるというようなメッセージをどこかに入れられないか悩んでいた。

結局、社会に関わるということなのだが、自分の思い描くことを行動に表すことができる社会、そういったものが結果的に人を認め合うことに繋がっていくと思う。

今の状態は、高齢社会に対して受け身になっている。それを受け身じゃなくてももっともっと前に出て行く、プラスに見えていいんだよという、見え方だけの議論をしている気がする。

実は、大事なのはそういった人たちの気持ちが、主体的に何かを作り上げることが出来るという環境なのではないか。

今日の話を受けて、自分の新たなライフデザインを掘り起こすというニュアンスをこの中に感じられたら良いのではないかと感じた。

事務局 今のご意見について、今回の行動計画の中で具体的に明文化できるのかどうか等、持ち帰って検討させていただきたい。

今回は、第1回目の策定ということで、WHOが示している八つの領域をベースに、この八つの基本方針を設定したが、秋田市独自の八つプラスもう一つ二つというのがあっても構わないし、八つの中のいくつかを複合的にした形の基本方針や取り組みの姿勢というのがあっても良いと考えている。今回、明文化するまでには至らないかもしれないが、今後、具体の事業を実施するときには、こうした考え方も含めてやっていきたい。

委員 施策体系図の市民の行動テーマと基本方針との繋がりについて、できればこの線を強く、太いところをもっと太くしていただくと、そこの関わりが分かり易くなるのではないかと。

委員長 (議長) 例えば「基本方針5 あらゆる世界がお互いを認め合う世界を作ります」のことか。

委員 線が3本繋がっていて、太さが異なっている。こうした部分の関係がより分かり易くなる。

事務局 市民の行動テーマ・行動計画との関連性のつながりの線については、実際にこれから活動していく中で、八つの基本方針全てに関連性が出るようないろいろな効果が出てくることを期待しているものであるが、全てに繋げてしまえば、逆に分かり辛くなってしまいうこともあり、確実に効果が期待できる又は、関連性が特に強いと考えられる主なものについて、それぞれ大体4本程度の線に押さえている。本来的には、全てが繋がるような形というのが理想的だと考えている。

委員	<p>別冊では、平成25年度から28年までの期間の、それぞれの取り組みごとの目標指数が挙げられているが、目標指数の値が全く変わらない取り組みがかなりある印象を受ける。</p> <p>どのように計画が実施され、達成できたのかということで評価が変わるのだとすると、目標指数の値は変わらないと言ってしまってよいのか。</p>
事務局	<p>本計画の指標の設定に当たっては、できる限りエイジフレンドリーシティの視点に立った新たな指標設定を各事業の所管課に求めた経緯があるが、この行動計画策定の為に新たな指標を設定するということは、既に本市総合計画を始めとする各部門別計画などで公表している指標との整合性の問題もあり、同じ数値を設定せざるを得ない取り組みが多くなるという事情があった。</p> <p>この指標をもってエイジフレンドリーシティの進捗が図られるのかという厳しい評価については、市民の皆様からも同様にいただくと予想している。こうした取り組みについては、市民が進捗を実感できるような事業の進め方などについて、引き続き、庁内で検討していく。</p>
委員	<p>我々が、このエイジフレンドリーシティのそれこそ、これからの対象者になること、超高齢化の流れの中で人口は年々減っていくこと、指標については、必ずしも増えていくばかりでなく、減っていくものも相当あり得ること、そしてまた、行政の予算は減っていくことなどを考えると、各種資料の見方についても非常に難しい要素もある中、全体的には、市役所に勤めていた者としては、よく作ってくれたと感じている。</p>
委員	<p>行動計画策定の主旨、基本理念については、市民の心を強く引きつけるものとなっていると思う。しかし、残念ながら、具体的な取り組みについては、これまでの行政の進めてきたものに若干色を付けた程度に過ぎないと感じている。</p> <p>この取り組みが、エイジフレンドリーシティの根底となる重要なものであることは確かだが、秋田市が日本で最初にWHOのネットワークに参加し、国内外に志を同じくする都市に新たな情報を発信していく義務があると表明するのであれば、どこでもやっているような取り組みでは魅力に欠けるのではないか。他の都市から視察に来るようなこともないのではないかと思う。</p> <p>秋田県の小・中学校が学力日本一を続けているということで、国内外から視察者が来るようになった。秋田市が、エイジフレンドリーシティを目指す都市として日本で最初に実施する、人々に夢と希望を与えるような目玉となるような事業を計画・実現することで、多くの人々が訪れ、豊かな秋田市になっていけると思う。</p> <p>私の夢は、「私も」または「私たち夫婦も」秋田市に住みたい、秋田市に転居したいと希望する人々がたくさん出てくるということ。次の5年後のサイクルに向けて、今からすぐにでも、その目玉作りの勉強会なり、取り組みに着手することを切望するが、市</p>

		側の考えはいかがか。
事	務	局
		<p>エイジフレンドリーシティの考え方は、市が中心となって目玉事業をやるというよりも、市民の皆さん自らが行動を起こすという点が新しく、その視点の元となるのは「高齢者の方は能力もあるし、力もあるのだ」ということ。そういう視点のもとで、皆さんがいきいきと暮らせる社会を目指していくことが重要と考えている。</p> <p>説明が不足していたが、市のエイジフレンドリーシティ施策としては、現在、高齢者コインバス事業や介護支援ボランティア制度の事業を実施している。高齢者の方々の能力活用と社会参加を進める事業であり、他都市にも誇れる事業と考えている。</p> <p>こうした取組を着実に進めていくことが大切なのではないか。花火のように一時(いつとき)華やかな事業ばかりを並べ、後になって、「エイジフレンドリーって何だったのか。」と市民に言われるのではなく、地道で息の長い取組を続けていくことが重要と考えている。</p> <p>また、市としても、これを作っただけではなくして、核となって揺るがないような事業を今後検討・実施していくこととしており、本計画はその取組の基礎であるレールの部分と考えている。これからも市民の皆さんのご理解とご協力をお願いしたい</p>
委		員
		<p>それではもの足りない。そのような、殻を破ろうとしない、守りが主体の姿勢ではいけない。日本で初めてエイジフレンドリーシティに秋田市が参加するのであるから、やはりハードなりソフトなり、もっと目玉になるようなことに取り組むべき。</p> <p>残念ながらこの具体的な取り組み事業は、今までやってきた施策に若干色を付けただけで、本当に情けないと感じている。</p> <p>新たなことに取組もうという熱意、殻を破ろうという意気込みが感じられる計画であって欲しい。</p>
事	務	局
		了解した。
委		員
		<p>私はこの前段の構想推進協議会のメンバーの時から関わって、3年になる。最初、漠としてスタートしたこのエイジフレンドリーの構想が、先ほどのご意見のように、深さの面ではいろいろな問題があるかとは思いますが、よくここまで具体的に、また広範囲にわたって検討をされてきたな、と感じている。</p> <p>先般、市の社会福祉審議会で、他の部署の施策について、いろいろ話を聞く機会があったが、各課所から、エイジフレンドリーシティの考え方が反映されたり、またはリンクさせて進めて行こうという施策が出されており、最初エイジフレンドリー担当部署だけで話し合ったものが、市の他の部署まで広まり、多くの施策に盛り込まれてきていると感じた。</p> <p>あくまでも構想で、実際その通り動くかどうかはこれからだとは思いますが、この行動計画そのものは非常に評価をしたい。</p>

また、対外的な面として、市のホームページにもエイジフレンドリーシティの検討事項が報告されているが、全国で秋田市が先がけて高齢化社会に対応する社会を作ろうということであれば、他の市町村でもこれから同様の試みがなされていくであろう。その時に、秋田市が検討・推進してきたことが対外的にホームページ等で公表されていると、他の市町村にとって非常に参考になるのではないか。この行動計画は、秋田市が具体的に進めていくこととして、対外的に発表してほしい。

一方、WHOのホームページには秋田市がメンバーだということは載っていて、日本語でエイジフレンドリーと検索すると秋田市は見つかるが、英文で検索すると秋田市は見つからない。

大変な作業かと思うが、論点だけでもまとめて、英文のものを公表してはどうか。世界でも同様のことを進めている国はあるが、多分、日本人ほどきめ細かく、具体的に検討する事はないような気がするので、これはこれで日本人らしい進め方として情報発信できるのではないか。

最後に、計画策定で終わってしまっただけではいけないと感じている。

高齢化についてであるが、2030年でそんな遠い将来じゃなくて割と近い。40パーセントの高齢化率と言うことになると、社会の崩壊という言葉を使うのが適切かどうかは分からないが、かなり深刻な事態と予測される。エイジフレンドリーの考え方を市が今後も継続して検討していくことが必要。

委員長  
(議長)

これがスタートで、ルールを敷いたということ。これから具体のものを各課ごと話し合い、それぞれの部署でエイジフレンドリーの考え方を具体化していくための、大事な土台作りという考え方だと認識している。

委員

本計画書は、本編で75ページ、別冊で95ページある。中身も各課横断的に渡っていて充実しているのだが、例えば市民の方がエイジフレンドリーという言葉を知って読むには、これ全部というのは厳しいのではないか。概要版を作ってはどうかと思うが、その予定はあるのか伺いたい。

事務局

この後、一般市民や市民100人会からの意見聴取を反映し、最終的な成案をまとめることになる。計画書の製本は、本編と概要版の2種類分の予算を計上しており、概要版については、例えば研修会や町内会など、地域のいろいろな所での配布や、各窓口を設置して自由に手に取ってもらえるようにするなど、多くの市民の目に触れるようにしていきたいと考えている。

委員

皆が同じ意識を持って前に進もうとする時、分かり易いものは必要。理解しやすいものが一つあるとないのでは、壁の高さが全く違ってしくる。イラストなりをふんだんに使って、それこそ超高齢社会になる秋田市民のどの人が手に取っても分かるというような形で概要版をひとつ作成いただければありがたい。

策定委員会は今回最終回になるが、委員の多くの意見を反映していただき、感謝している。私は環境の視点で参加させていただいたが、あらゆる生活の中に環境は密接に関わっている。例えば住環境。本計画にもバリアフリーや安全などについて掲載されているが、例えば、高齢者が居間の暖かさと脱衣所の寒さからヒートショックで倒れてしまうというケースがあり、高齢社会なりの住環境の整備が必要になっているということがある。

あるいは秋田市の環境部が進めているあきたスマートシティ・プロジェクトでは、90歳ヒアリングとあって、高齢の方から昔の生活の知恵をいろいろ伺い、現代の新しい社会でも生かせるいろんな知恵を学ぶという試みもなされている。

高齢であることの意義、高齢者が担える役割というのものが、新しい、様々な視点でできつつあると感じている。

私も、エイジフレンドリーシティ秋田市の一員として、今後も協力させていただきたい。

委員 概要版は、パブリックコメントが終わってから出すということか。一般的ではないが、パブリックコメントの実施時に概要版を示すというのはどうか。

恐らく、この案を読んで意見をとって、ぱらぱらと見るだけで、量も多いのもういいと思われてしまわないか。概要版だけでも見てもらえれば、意見はもらえなくても、広報になる。また、概要版で関心を持ってもらえれば、計画書の関連するところを読んでもらえるということもあるだろう。場合によっては、その概要版だけ読んでの意見でも構わないのではと思う。

パブリックコメントと言っても、なかなか意見は出てきづらいもの。せっかく初めてのことをやるので、市民のいろんな意見が出てくるような工夫ができればよいと感じた。

事務局 本件に関するパブリックコメントは、既に開始しており、今のご意見を反映させることは難しいが、見直しの視点として、今後、市が市民に意見を伺う際の参考とさせていただきたい。

委員 始めに、委員の皆様方から本当にいろんなご意見ご提言等をいただき、ここまでまとめ上げさせてもらうことができ、市として感謝を申し上げたい。

次に、一委員としての意見になるが、要は、エイジフレンドリーシティと言った時に、最初、これ何だろうなという辺りが多く、それを一般化した考えとして解け込ませていくまでに、多くの努力を要するのだろうと感じている。

その方法の一つが体系で、本編掲載の体系図が、行政、市民団体・企業等、市民の各セクターが一つの目標に向かってお互いに連携して取り組んでいく意識を共有でき、それぞれの取り組みがどのようなコラボレーションのもとで進んでいくのかを示すもので、そのイメージを最初に入れ込むことができれば、先ずは一步前進なのではないか。

全体を俯瞰しながらブレイクダウンしていく中で、事業の具体性や目玉となる事業が不足している意見が出てきており、やはりそこは、何かを入れ込んでいく必要があるだろう。エイジフレンドリーを進めて行く中でボトルネックとなっている部分はどこか、という課題を整理しながら、そこに、課題を解消できるような重点事業又は先導的な事業を入れていくというやり方が効率的なのではないか。そういう意味では、いろんなことを先ず皆が知り、考えることが重要。

先程の環境の事例に関連して、地球温暖化と言っても誰も相手にしなかった様な時代もあったが、今や、環境配慮は当然入れ込むべきものとなった。エイジフレンドリーの考え方も、様々な行動や事業において当然配慮しなければいけない事項で、このことが常識化するまでエネルギーを注ぎ続ける必要がある。

本計画は、初めて作り上げるものであることを考えると、出来上がって粗が見えてくるのも一つの成果なのではないかとも思うが、もちろん、それで良しとせず、市民の皆さんのご協力を得ながら、様々な事業をこの計画に組み込んでいくことが重要なのだと感じている。

委員長  
(議長)

一般市民の方が、行動計画というネーミングを見た時、具体的な事業が書いてあるというイメージで捉えられやすい。

委員からの、行動計画は、皆が一つの目標に向かって取り組んでいくための方向性を示すものという理解は分かり易かった。このことを示す記載が計画書の冒頭にあると良いのではないか。

委員

目標とか方向性は非常に納得できるところにまとまっており、個別の事業目標もいい方向で書かれているが、それを測る指標に目標とあまりにも乖離してるものがある。例えば、人にやさしい歩道づくり事業の指標であれば、バリアフリーの歩道の件数とか、歩道に近い危険な箇所の数、バリアフリーのイメージを象徴するものとしてベンチの数にするとか。高齢者にやさしいというイメージの指標にするには、工事名を書かれてもあまりピンとこないのではないか。

また、放置自転車対策経費。交通安全ということであるが、高齢者にやさしいというところからは少し乖離しているのではないか。もちろん、放置自転車があることで、歩行空間に影響が出るということもあるが、この指標をもって目標を見ていくとして、その数値が良くなって安全になったという実感は湧きづらいのではないか。

バス案内サービスの充実についても、本当にそれが高齢者に優しいシステムであるか、高齢者がどれだけアクセスできているかという数を指標にするべきではないか。

ここで問題になってくるのは、そのような数をどうやって取るのかということだが、今後、力を入れていくこれらの事業については、その取組みの新たな指標とするための数値を取ることにしてはどうか。

スポーツのところでは、例えば、市民スポーツ活動振興事業は、高齢者の割合を増やすといいながら、指標としては、20歳以上の市民の割合を取っている。本来ならもっと上の年齢の人の数を指標とするべきところだが、たぶん、このような数が取れていないのだろう。

こういった数を取るという取り組みをもっとすることが、次の新たな取組みのインフォメーションになっていくのではないか。現状ではなくポストのところ、本腰を入れていくところの数を取るという行動に取り組んでいていただきたい。ちなみに、スポーツホームタウン推進事業について、ノーザンハピネッツの試合は、関係者に聞くと、高齢者の観戦者数というような情報は取れるかもしれないということであった。

例えば、ほかの都市で、今年はこの項目はニコちゃんマーク、この項目は気むずかしい顔など、非常に分かり易い指標で各年比較をしているところがある。この項目については3年目で笑ってくれたとか、市民とコミュニケーションできるような指標になれば非常に興味度も高まってくるのではないか。

この項目に対してこの指標なのか、という乖離があると、指標を見ても市民に伝わるところも伝わらなくなってしまふ。これだったら伝わりやすいという指標を設定できるよう、もっと情報を集めてほしい。

委員 二つの作業部会でいろいろなことを試し、そこで皆さんが出し合った意見が市民中心の行動計画という形になったということで、面白い秋田ならではのいろんな活動に繋がっていきそうな、あるいは、高齢の方たちが生き生きとできそうな内容になってると感じた。この計画は、この先どのような形で進められていくのか。

事務局 この行動計画の取組推進の中心に位置付けられる市民活動団体が設立されている。この計画が市民の手で実行され、市民の自らが検証するというような活動が続いていくことで、市民参画によって作られたこの計画が結果を出していけるものと考えている。市として、こうした活動主体との良好な関係作りに努めながら、計画の推進を支援していきたい。

## (2) 今後のスケジュールについて

事務局から、次の事項について説明を行った。

ア 意見募集の実施について

(ア) パブリックコメント（平成25年7月7日まで実施）

(イ) 市民100人会への意見募集

(ウ) 市議会議員（厚生委員会委員）への意見募集

イ 計画書の製本について

平成25年9月の完成を予定（概要版および冊子）

ウ 世界保健機関（WHO）への計画書提出

平成25年10月を予定

委員長 (議長)	質問、意見等なければ次の議事へ移る。
-------------	--------------------

## (3) その他について

事務局から「エイジフレンドリーあきた市民の会」について、説明を行った。

- ・作業部会を母体に、平成25年3月に設立
- ・会の自主的な活動に対する市の支援制度を創設予定

委員長 (議長)	質問、意見がなければ、これで全ての議事を終了する。
-------------	---------------------------

## 3 閉会